

榊原工業株式会社

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none">● 業種：製造業（鋳型中子製造）● 事業概要：鋳型中子（自動車部品、建設機械部品、農機具部品）の製造● 事業規模：売上 20億円（2020年5月期） 拠点数：5（愛知県西尾市3、豊田市1、富山県高岡市1） 従業員数：140名（パート・アルバイト・実習生含む）
2.削減目標案	<p><Scope 1・2の削減目標と削減に向けた取り組み> 目標：2030年に2018年比で50.4%削減 取り組み：マテリアルフローコスト会計手法を活用し、会社全体のエネルギー量の見える化を実施し取り組む（仕組みで成り立つ活動：1回/月低減会議を実施し対応）</p> <p><再エネ100%の目標について> 目標：2025年までに太陽光発電などの環境配慮エネルギーの導入を検討していく（1回/月の定期取締役会での協議事項とする）</p> <p><Scope 3の削減目標と削減に向けた取り組み> 目標（カテゴリ5）：2030年に2019年比で60%削減 取り組み：マテリアルフローコスト会計手法を活用し、会社全体の産業廃棄物量の見える化を実施し取り組む ※ゴミステーションの設置等をしゴミ分別の細分化と計測を実施し取組を強化 サプライヤーとの連携を取り産業廃棄物低減活動を実施を計画 （SANDEELプロジェクト：廃棄砂活用によるさつまいも育成事業の展開）</p>

榊原工業株式会社

項目	内容							
3.基準年のGHGインベントリ	<ul style="list-style-type: none"> ● Scope 1・2 の排出量の状況 <p>A pie chart illustrating the distribution of greenhouse gas (GHG) emissions between Scope 1 and Scope 2. The chart is divided into two segments: a light blue segment representing Scope 2 at 52%, and a dark blue segment representing Scope 1 at 48%.</p> <table border="1"> <caption>GHG Emissions by Scope</caption> <thead> <tr> <th>Scope</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Scope 1</td> <td>48%</td> </tr> <tr> <td>Scope 2</td> <td>52%</td> </tr> </tbody> </table>	Scope	Percentage	Scope 1	48%	Scope 2	52%	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE1 : 1,791.2[tCO₂]
		Scope	Percentage					
		Scope 1	48%					
Scope 2	52%							
<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE2 : 1,929.7[tCO₂] 								
<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE3 : 309[tCO₂] <p>※Scope3は2019年度の 数値で算定</p> <p>目標の対象セクター : カテゴリ-5</p>								

榊原工業株式会社

項目	内容
<p>4.気候変動によるリスクと機会の分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 想定リスク 台風の大型化やゲリラ豪雨などの異常気象による工場生産活動への影響が懸念される → 客先への安定した供給への不安視 ● 機会 <ul style="list-style-type: none"> ・当社はBCPの活動にいち早く取り組んでいるため 更なるリスクの洗い出し等を継続的に実施していく（地震対策含む） （1回/月のBCPワーキンググループ活動の更なる推進） ・自社が省エネ活動に率先して取り組むことによる外部企業評価 （客先・得意先・金融機関等）の向上が期待される ・近い将来、環境配慮実践企業になることが会社存続の基盤となると判断し、先駆的に取り組む企業体制の構築を目指す
<p>5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 自社の経営の中で気候変動のリスクと機会を位置づけるため、中長期CO2削減目標の策定を計画。この目標が2℃目標の水準に整合すると表明できるように、SBTの認定を受けることを目指している ● SBT取得により、顧客や投資家からの削減要請に応えることを示し、ビジネスチャンスを拡大することを期待 （他社との差別化の実践）

榊原工業株式会社

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境対策活動で産業廃棄物の見える化（マテリアルフローコスト会計手法）を実施していく中、会計手法からCO2換算手法が社内協議され目標案を検討。マテリアルフローコスト会計検討会（1回/月）で協議し、定期取締役にて提起され社内コンセンサスを得た上で、SBTイニシアチブへ提出 <ul style="list-style-type: none"> ・マテリアルフローコスト会計検討会において、工程フィッシュボーンチャートを作成しエネルギー量及び産業廃棄物量の見える化を実施したことで、温暖化のリスクと機会を見出し、野心的な全社目標の必要性を共有できた ● 目標の実現可能性について社内で協議を実施した結果、様々な意見はあったが、今後の環境配慮企業への体質改善は必ず必要だという見解及び社会的要請に応じてバックキャストで目標を設定するという方針を説明し、理解を得た
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ● Scope 1、2の削減において、省エネ配慮型設備及び機器への切替えを検討していくことが必要 環境配慮エネルギーの活用を検討（電力会社の選定含む） ● Scope3のカテゴリ5の削減目標の達成のために、サプライヤーと協働しリサイクル化を推進（産業廃棄物低減活動の推進） 産業廃棄物についての専門的知識の人材に課題がある